



2020 Olympic and Paralympic Games

# The Paralympics

## 「パラリンピックの起源」

1948年、ロンドンオリンピックが行われたこの年に、ロンドン郊外のストーク・マンデビル病院内で開かれたアーチェリーの競技会がパラリンピックの起源です。第2次世界大戦で、主に脊髄を損傷した兵士たちのリハビリの一環として行われたこの大会は徐々に大きくなり、1952年に国際大会になりました。そして今年には遂に日本でのパラリンピック開催。選手のこと、競技のこと、もっと知ってパラリンピックを楽しみましょう！



## 東京パラリンピック(8月25日~9月6日)へ 大舞台での活躍をめざす 兵庫県のアスリートたち

2020年東京パラリンピックの開幕まで半年を切りました。兵庫県在住のパラアスリートたちも、大舞台での活躍をめざして、練習に取り組んでいます。



### パラリンピック出場を 後押し・県が支援制度

兵庫県在住の選手たちの東京パラリンピック出場を後押ししたいと、県は2017年度から「障害者スポーツアスリート特別強化支援事業」を展開。2019年度はメダルの獲得が期待される「A」支援に6選手、出場が期待される「B」支援に19選手を選び、海外遠征などにあてる強化費を支援しています。(Aは年間最大30万円、Bは同15万円)

## “遅咲きのアスリート”メダルへ一直線 車いす100mの大矢勇氣選手

車いす陸上の大矢勇氣選手(38)は、2019年11月に開催された世界パラ陸上の100m(車いすT52クラス)で4位に入賞し、東京パラリンピックへの出場が内定しました。スタートダッシュを武器とした先行逃げ切りのレーススタイルに磨きをかけ、メダル獲得をめざしています。

大矢選手は中学3年の時に脳腫瘍を患いました。定時制高校1年生の時には工事現場で事故に遭って脊髄を損傷。下半身まひとなり、

車いす生活を余儀なくされました。人生に絶望した時期もありましたが、05年に知人に誘われて参加した大会の車いす100mで優勝を飾ったのをきっかけに、本格的に陸上競技をスタート。11年に母ががんで亡くなる間際にかけてくれた「世界をめざして頑張れ」という言葉を胸に努力を重ね、競技歴14年で初めて代表の座をつかんだ。遅咲きのアスリートです。

金メダルを獲得するためには、レース後半のスタミ

ナが課題だそう。競輪選手をめざしていた兄を練習パートナーに、持久力を高める特訓が続いています。大矢選手は「いろんな人に支えられて、ここまで来ました。恩返しができるようなレースをしたいですね」と話しています。



大矢 勇氣選手  
2020年東京パラリンピック  
陸上車いす  
男子100メートル日本代表

### メダル獲得が期待される「A」支援対象の6選手

車いすテニス	上地 結衣さん	明石市	リオパラリンピック女子シングルス銅メダル
柔道	北菌 新光さん	神戸市	2017年視覚障害者柔道世界大会銅メダル
卓球	別所 キミエさん	明石市	車いす卓球界のレジェンド
トライアスロン	円尾 敦子さん	伊丹市	2019年世界パラトライアスロン横浜大会 視覚障害女子6位
バドミントン	正垣 源さん	神戸市	2017年タイパラバドミントン国際大会上肢障害男子ダブルス3位
陸上	大矢 勇氣さん	西宮市	2019年世界パラ陸上100m(車いすT52) 4位